

## ●地区別計画推進活動報告（社会福祉大会第2部）

平成25年2月19日（火）、第31回 緑区社会福祉大会の第2部として、事例発表「身近な地域でつながりをつくるために！～いざという時に役立つ日頃のつながり、見守り体制を考える～」が開催されました。

この事例発表は、平成23年度からスタートした第2期緑区地域福祉保健計画「みどりのわ・ささえ愛プラン」のうち、緑区で初めての策定された11地区ごとの「地区別計画」の具体的な取組内容を広く地域の方々にお伝えし、推進状況を共有・把握することを目的として、計画期間である平成23～27年度の間、毎年度開催を予定しています。

## ＜緑区社会福祉大会チラシ＞

当日は、緑公会堂を会場に、ロビーにて地域作業所・福祉施設製品の展示（参加施設：ピネル工房、緑工房、みどり福祉ホーム、カプカプ竹山、横浜市つたのは学園、横浜市中山みどり園、みどりの家）が行われる和やかな雰囲気の中、日頃から、地域で福祉・保健などの活動で活躍されている方々を中心に、およそ480人の方々にご参加いただきました。



## ＜受付（2階ロビー）の様子＞

第1部の式典では、緑区において永年にわたり社会福祉活動に携わってこられた多くの団体や個人の功績に感謝し、地域福祉の一層の充実を図ることを目的に表彰が行われました。

## ＜式典（表彰）の様子＞



そして、その表彰の余韻が冷めやらぬなか、休憩を挟み、第2部がスタートしました。はじめに「みどりのわ・ささえ愛プラン推進委員会」委員長の田園調布学園大学人間福祉学部教授の村井祐一先生から、発表を行う2つの地区の取組にも共通する“つながり”をテーマに、「身近な地域でつながりをつくるために！～いざという時に役立つ日頃のつながり、見守り体制を考える～」について講演があり、そこでは、地域での見守り活動について、「見守りだけではなく、声をかけ、話し相手になり、信頼関係を醸成し、つながりへと発展すること」が見守り活動の本当の目的であるとの説明がされました。



## ＜村井氏（敬称略）＞



## 第31回 緑区社会福祉大会

**【日時】平成25年2月19日（火）**  
**午後1時から3時30分【会場】緑公会堂**

【第一部】式典（1時～2時）  
**社会福祉功労者・金品預託者の表彰**  
 区内の社会福祉活動に貢献した個人・団体を表彰します。

【第二部】事例発表（2時～3時30分）  
**「身近な地域でつながりをつくるために！」**  
 ～いざという時に役立つ日頃のつながり、見守り体制を考える～  
 講師：田園調布学園大学 人間福祉学部 教授 村井祐一 先生  
 平成23年度からスタートしました第2期緑区地域福祉保健計画「みどりのわ・ささえ愛プラン」の推進状況を広く地域の方々にお伝えすることを目的に、具体的な推進事例を発表していただきます。

【事例発表地区】  
 ■十日市場団地地区の取組 …… 十日市場団地地区別計画推進委員会  
 ■轟が丘地区の取組 …… 轟が丘地区別計画推進委員会  
 ※第一部・第二部ともに、手話通訳有り

◎大会参加にあたり、事前申込みは不要です（参加費無料）。  
 ◎当日2階ロビーでは、地域作業所・福祉施設製品の展示をおこないます。

※参加施設 … ①ピネル工房、②緑工房、③みどり福祉ホーム  
 ④カプカプ竹山、⑤横浜市つたのは学園  
 ⑥横浜市中山みどり園、⑦みどりの家

緑区社会福祉協議会 電話：931-2478 FAX：934-4355  
 緑区福祉保健センター 福祉保健課 事業企画担当  
 電話：930-2304 FAX：930-2355

続いて、行われた事例発表では、まず、十日市場団地地区、次いで霧が丘地区から報告がされました。それぞれの地区の概要・特徴・策定経過・取組内容がパワーポイントを用いて説明されました。

十日市場団地地区では、平成 23、24 年度に行われた取組が紹介されました。当該地区では、地区課題に対して、「つながりをつくる大切さを共有する」ための取組を検討してきました。そして、平成 23、24 年度には地区別計画推進委員会の取組として、地域での助け合いを目的とした「災害用かまど」の地域行事への活用、「レスキューシート」を使用した訓練、「十日市場お茶飲み会」の開催等が行われました。

なかでも、「十日市場お茶飲み会」は「気軽に参加でき、担い手にも負担が少ない場」をコンセプトに、初回には 30 人を超える参加者が集まりました。今後は参加者の増員と同時に様々な世代の方に参加してもらうために、曜日を変えていながら、地区に定着させることを目標に取り組んでいきたいとの抱負が語られました。最後には、地域でのつながりをつくるために、「いつでも支えあえる十日市場団地に！」を目標に今の活動を継続していくとお話しいただきました。

<十日市場団地地区の(左)野口氏  
(右)橋川氏(敬称略)>



<十日市場団地地区の報告内容の一部>

霧が丘地区では、地区別計画の基本目標の一つである『安全・安心・健康』のまちづくりについて、防災活動を中心とした地区の取組が紹介されました。霧が丘地区の取組の特徴は、過去の災害の教訓を基に、より実践的な取組が行われていることです。そのなかでは、次のような活動が行われています。

具体的には、運動会や盆踊り大会を通じた「顔の見える関係」づくり、「災害用備蓄」の整備、年 2 回の「宿泊防災訓練」の開催、本物の消火器を使用した訓練等の実施による「救助する人材」の育成、広報紙を活用した「情報収集と発信」等の活動を行っています。それらの活動を通じて、「防災日本一の街！霧が丘」を目指した取組が進められています。

またその他にも、「ゆうゆう霧が丘&社協ふれあいまつり」開催、学校や PTA との連携等の取組が行われており、そのような取組を継続・発展させ、「つながり」の輪を広げていくことをお話しいただきました。最後には、「日頃からの近所づきあいから、いざというときに助け合えるようにする」ことが今後の抱負として語られました。

<霧が丘地区の塚田氏(敬称略)>



霧が丘地区の地域での取組 防災⑧

「防災日本一の街！霧が丘」を目指して！

- 各家庭で食糧や水を3日分備蓄する  
(ポリタンク10リットル2個、風呂の水)
- 懐中電灯や電池、携帯電話の手動充電器を確保する
- 日頃から近所づきあいをして、いざというときに助け合えるようにする

36

<霧が丘地区の報告内容の一部>

各地区の発表後には、来場者に対し、村井先生から質問が出され、色紙刷りの大会プログラムの表裏を使い「YES/NO」で答えていただきました。発表を聞くだけでなく、参加しながら、自身の住む地域の取組と比較することで、発表内容をより身近に感じることができた一時になりました。

最後には、村井先生から総評をいただき、会場からの大きな拍手でプログラムが終了しました。



<会場の様子>